

高知県高知市役所

高知市役所では、主に津波対策・災害救助時の取り組み、防災訓練及び防災備蓄の4点をメインに、市職員の方より説明を頂いた。未来に来るであろう南海トラフ地震に対しての防災レベルの高さに、八丈島と照らし合わせた際に、災害へのイメージの解像度の高さ、防災措置の準備に、高知市としての本気度が伝わった。

八丈町議員からは、高知市の取り組みに対し、質問内容も多岐に渡ったが、市職員より1つ1つ真摯に答えていただいた。

市では、東日本大震災後、南海トラフ地震に備えH24年に防災対策部を設置。高知市の立地の特徴としては、中枢機能が集積されているため、全方位型の防災拠点となっている。

高知港の海岸では、地震・津波の被害度を想定し、「レベル1：津波の侵入を防ぐ（防災）」「レベル2：津波時間を稼ぐ（減災）」に分け、津波対策は三重防護（第1ライン：湾岸施設、第2ライン：湾口及び海岸保全施設、第3ライン：海岸保全施設）の方針に沿い、海岸保全施設を整備しているとのこと。

高知市内の避難施設は津波避難タワー9ヶ所、津波避難センター3ヶ所設置がされている。タワーは津波の避難箇所の機能のみを有しており、センターは避難所の機能を有している。市としては費用の面も検討し、タワーの建設を優先させているとのこと。指定避難所に関しては地震の規模（L1,L2）に合わせ、避難者数の想定を行っているが、市域内のみでは避難所の不足分を補うことが困難のため、市外への避難も推進されている。避難所・避難タワーの立地としては、海沿いの種崎地区に集中している。同じ海沿いの桂浜地区等には山があり、自然の高台になっているため、地形に合わせた設置体制となっている。

八丈島でも関心の高い、ペットの避難に関しては、八丈町と同様に、市として同行避難を推奨しており、同伴避難はできない。基本ペットは外での避難となる。

住民に対する情報発信においては、防災無線の他、全域でスマートフォンでのアプリ「高知市津波SOSアプリ」を制作し、活用している。その他LINEやエリアメール等での情報発信や、緊急速報も行われているとのこと。

住民との防災対策関連においては、自主防災組織宛の補助金を利用し、住民向けの講座等を行っている。ただし「住民の慣れ」というのも実態としては存在し、人によって取り組みに対しての温度差はあるとのことだった。

八丈島にも設置される救命艇に関しては、地元企業に寄贈していただいたもので、県管理の公園施設「わんぱくこうち」に設置されているとのこと。管理は職員によって行われており、用途は来園されている方向けのもので、夜間等営業時間外の利用はできない。

目には見えない、未知の地震・津波に対し、市としていかに可視化し体制を整えられるか。当然きてからでは遅く、いかに自分ごととして事前の対策を行なっているか。高知市の取り組みには大変刺激をいただいた。八丈島ではルールに基づいた完備というイメージで、高知市では自らルールを策定し、見直しを常に行い取り組

んでいるような前向きな印象を受けた。地震や津波は危険なものであり、住民をどう守っていただけるか、組織としての向き合い方を考えていきたい。



高知県高知市日高村役場

高知県高知市日高村役場では、全国でも先進的な取り組みとして、村全体を通じた「村まるごとデジタル化事業」の取り組みや、過疎地域としての対策を村役場職員の方達に伺った。

日高村は面積が 44.85 km²、人口が 4823 人（令和 5 年 3 月時点）。八丈島と比較すると、ひとまわり小さい地域と考えられる。立地としては高知市街地から、車で約 30 分ほどの位置にある。

日高村が話題となった一つは、2021 年 6 月より開始された「村まるごとデジタル化事業」である。スマートフォン普及率 100%を目指し、スマートフォンの普及と利活用を促し、アプリを利用して「防災」「情報」「健康」の側面から生活を支援する取り組みだ。

はじめは村の職員がきっかけとなり、携帯大手会社 AU やスタートアップ企業「トラストバンク」と協力をし、現在は 92.7%の住民がスマートフォンを利用している。健康アプリや地域通貨の開発、利用を行い、デジタルディバイド層の解消支援を積極的に行っている。村の公式 LINE にも約 1800 人（3 人に 1 人）は登録を行っており、日頃から情報発信が送られている。

この取り組みを行ったのは一人の職員が中心となり、五十の自治体を回り、丁寧に説明を重ねたという。人間の持つ力・行動力が村を変えていくお手本例である。

過疎化としての現状は、年間 40 人ほど人口が減っている現実がある。村として地域おこし協力隊事業を積極的に活用し、現在は 16 名が在任。計 33 名の協力隊が赴任され、任期後の定着率は 65%となっており、デジタル活用だけに限らず制度を積極的に活用している事例でもある。地域おこし協力隊職員による村の説明イベント等も行い、移住者として村を理解・広める取り組みを行っているようだ。

空き家対策については平成 28 年度に村内の空き家調査を行い、その結果をもとに空き家対策総合支援事業に取り組んでいる。平成 29 年～令和 5 年度においては 24 世帯 65 人の移住が行われた。

小さな村だからこそできる、村役場を中心に地域住民と協力をし、課題と取り組んでいる印象を受けた。村役場の職員も地元や近くに住む方が多いとのことで、地域愛の深い町であることも、雰囲気から感じられた。

過疎化地域では、デジタル化の波についていけない、時代と現実に隔たりがあるのは事実である。どのように便利なものを利用していただけるか。また日高村は全国的にも有名な綺麗な川が流れており、農業も盛んである。八丈も同様に自然との関わり方も重要である。行政として、過疎地域としてどのような未来に進むべきか。大変参考になる視察であった。



NPO 法人わのわ会

NPO 法人わのわ会の代表である安岡千春さんにお話を伺った。

日高村が「村まるごとデジタル事業」の他に全国でも注目を浴びた事例が、NPO 法人わのわ会の取り組みである。

会の始まりは、代表である安岡千春さんが、以前に働いていた子育て支援センターにて、子どもを預ける母同士でなにかをしよう！と始まった取り組みが広がっていき、去年は会全体として1億3千万の売上になるまでの事業となった。

有償ボランティアとしてはじまったわのわ会は2005年にNPO化し、日高村の特産であるトマトの規格外品活用や、地域の困りごとを雇用の創生として取り組んでいる。

会としては16名の職員、パートアルバイトが20人ほど、障害者就労支援で約14名でグループ全体で50名弱、5部署23サービスを展開している。給与も現状は最低賃金程度だが、人の役に立つ、ありがたいと言われるのが目的とおっしゃっていた。

村との関係は良好とのことで、現在は企画課とはふるさと納税や地域おこし協力隊、産業環境課とはトマト加工販売拡大事業や農家との調整等、健康福祉課とは障害者や高齢者の支援連携、教育委員会とは小学校との調整など多岐にわたる。

私たちが視察を行う理由の一つにあげた買い物代行サービスは、駅近くにあったスーパーが閉店し、車移動のできない高齢者の方たちが、買い物ができなくなったところから始まったという。仕組みとしては朝9時半までに連絡をいただき利用者の料金は100円で行なっている。利用件数は1日5,6件（土日祝祭日休）で、こち

らも行政の業務委託で行われており、年間委託費として300万円支払われているそう
だ。

安岡さんのお話からは、「村を離れていった人たちが、帰って来たい。という仕
組みを作りたい。雇用が担保できれば帰ってくる。雇用の受け入れを行いたい。」
また企業ではないので、村を助けながら、村にも助けてもらおうと発言をされてい
た。

「そのためにも、儲ける力は必要で、計算をしないといけない。対等な立場でサ
ービスを行い、利用者からも『無償のボランティア＝文句言えない。無責任。』で
はなく、『有償のボランティア＝文句を言える関係性であるべき。』」

「支援という言葉は嫌い、上下関係の支援は嫌。対等な関係性のためには対価が
必要＝みんなが幸せになる仕組みではないか。」

行政の役割や地域での小さな仕事について、深く考えさせられる内容であった。

八丈島にもたくさんの課題がある中で、行政として何ができるか。個人として何
ができるか。地域の課題を解決するには行政と住民のお互いの協力があってでき
る。また地域の人を巻き込み、皆で町を作っていく取り組みをなさっている安岡さ
んの行動や言葉には、八丈島でも活用の糸口がたくさんあるようなお話であった。

緊急 日高村 買い物支援サービス 11月

2024年 11/1(金)~11/30(土)の予定 利用状況により、12月からは
時間など変更することもあります。

無料送迎車

役場 → → 役場

サンシャイン佐川 行き (祝日運行なし)
水 (11/6・13・20・27)

役場	① 役場発 10:00 →	スーパー	佐川発 11:20 →	役場
	② 役場発 14:00 →		佐川発 15:20 →	

※佐川発→役場着便(降りの便)のみ、
希望者がいれば往車します。(村の駅・フルハ・サングリーン等)

サニーアクシスの 行き (祝日運行なし)
月・金 (11/1・8・11・15・18・22・25・29)

役場	役場発 10:00 →	スーパー	いの発 11:30 →	役場
----	-------------	------	-------------	----

停車場: 役場 → 社会福祉センター → 観治屋(旧土電バス停) → 折月横山工業前 → 小村神社前

移動販売車 販売時間 場所: 日高村役場駐車場前

	月	火	水	木	金	土日
とくし丸 (サニーマート)	×	12:00~	×	×	×	×
ハッピーライナー (サンプラザ)	×	×	×	×	10:30~ 11:00	×
セブンイレブン	11:40~ 12:15	×	11:40~ 12:15	×	×	×

【お問い合わせ】日高村役場企画課 電話: 0889-24-5126

救命艇及び沿岸部津波避難タワー等現状視察

最終日には高知市湾岸線にある、救命艇や避難タワー、避難センターを回った。

高知市の説明でもあった「わんぱくこうち」に設置されている救命艇は、正直実際の避難というよりは、設置を行い周知への震災に対してのアピールに近い存在のように感じた。設置された箇所のそばには車等が停められており、実際には海に流れるような場所ではなく、園内の池に着地されるのではないかと予想がされた。

八丈町末吉地区においても、管理方法や、震災の際にはどのように救命艇がルートを通り海に流れていくか。災害時にしっかりと活用を行えるか、深く考えさせられた。

津波避難タワーやセンターは主に種崎地区に設置されている。近くを移動する中で、海に囲まれた海拔3mの町あいには、感覚的には近場に何箇所もあり、道も狭い。津波が来た場合を考えると、車での移動は難しく、いかにそれぞれの避難施設に移動できるかが鍵になりそうであった。

八丈町では、現状としてはそういった施設はないので、いかに早く高台にあがれるか。情報がしっかりと伝えられるか、方法を考えていきたい。



津波救命艇 (つなみきゅうめいてい)



間に合いそうにない...



そんなときは!



浮いて生き延びる



避難



すぐに避難可能

どんなに高い津波でも



浮いて対応



守る

壁に激突しても安全



割れ目から水が入っても沈まないから安全



ひっくり返っても

元に戻るから安全

家や職場、学校などの近くに津波救命艇
これに乗って命を守ろう!







まとめ

高知市役所でのお話や高知市沿岸部の視察を行い、「南海トラフ」というキーワードも強調されるが、地震・津波が生活の中にとっても近い存在であることが感じられた。視察で訪れたということも加味されるが、防災対策部の設置や防災訓練、避難施設や救命艇が目に見える形で存在し、景色の中に震災が自分ごととして存在している。対策も、可視化されている取り組みは、とても参考になった。八丈島にお

いても、未来の対策、予知の難しい災害の予測や行動を、可能な限りシュミレーションが行われ、住民の皆様にも伝わるような取り組みを行っていきたい。

日高村においては、日高村役場の皆様、わのわ会の安岡様にお話を聞かせていただき、同じ過疎化地域のなかで、それぞれの特徴を活かしながら、どのように町を作っていけるか。活性できるかと誰もが考える中で、素晴らしいアイデアがあっても、誰がその役割を行うのか。そんな時に日高村では責任を負い、覚悟を決めて物事を動かし、さらに続けている「人」の強さを感じる事が一番の収穫であった。空論の議論はどこでもされているが、現実として成果を上げている団体は少ない。取り組みやアイデア、計画をいかに行動に移し、その町や村を先導していけるか。ともに行っていけるか。議員としてはもちろん、島に住む1人の人間として過疎地域の希望の光を授かった大変有意義な視察であった。